# 隣の君は…？

遊太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
隣の君は…？

【Ｎコード】
Ｎ３３７５Ｉ

【作者名】
遊太郎

【あらすじ】
中学３年生になりたての神杉翼が、どのような学校生活を送っていくか。
読んでみないと分かりませんぞ（笑

## 1、3－1神杉翼（前書き）

中2の男子です。
小説はまだあまり書いたことがなくて、読みづらいかもしれません
がよろしくお願いします。

## 1、3－1神杉翼

俺は神杉翼。
今日から中学3年生になる。
「お～ぃ翼ぁ！」
マヂかょ！来るの早いっつーの！
「バカか！まだ7：30だぞ」
「お前こそバカか！1学期の登校初日は席の確認するんだろ？早く行かないでどぅすんだょ！」
あ～そぅだったな。
新しいクラスになって席も変わったんだ。

俺達の中学校では春休み中にクラス発表をするんだけど、同じクラスになる人を発表するだけで席までは発表されないんだ。
つまり学校へ行って、自分の目で確かめないと分からないんだ。
「早くしろって～！」
「分かってるって！ちょっと待ってろょ」
ダダダダッ…ガチャ
「うっし。じゃあ行くか！」
「遅っせぇよ！ダッシュで行こうぜ」
「マヂっすか～！？」
とか言ってる間に宗司が走り出した。
「ちょっと待てよーっ！」はぁ…はぁ…
「着いたぜ。学校」
「お前…速すぎだろ…」
「いゃ、お前が遅いんだょ」
「なんだと～」
「それはまぁいぃからさ、早く教室行こうぜ！」
こいつはどんだけマイペースなんだょ…

タタタッ…ガラ
お～机がきれいに並んでるな。
って関心してる場合じゃなくて、俺の席は…
黒板に貼ってある座席表を見ると、【３１１５　神杉翼】があった。
１番後ろの席の廊下側だ。
「宗司～俺の席あったぞ！」
「マヂか！俺もあったぞ！」
宗司の席は…窓際の前から３番目みたぃだ。
「１番後ろとか最高じゃん」
「お前だって窓際好きだろ？よかったじゃん」
ってか、もぅ１つ大切なことがあったな！
…隣の席は誰？
俺はイスの後ろの名前を確認した。

## 1、3－1神杉翼（後書き）

感想とアドバイスをお願いします。

## 2、誰??

「岡庭真紀…?」
聞いたことはあるけど、詳しくは知らないな。
確か去年、洋亮が同じクラスだったような…
「翼!いぃ席でよかったな」
「え、あぁ…それより岡庭真紀って聞いたことある?」
「あぁ聞いたことあるょ。結構可愛いらしいぜ」
宗司ぁたまにおかしくなるんだよな。
「あっそ。隣がそいつだったんだ」
「マヂかょ〜!?いぃな…」
宗司はそいつが好きなのか?
んなわけなぃよな。
宗司は女子なら誰でも好きだしな。
「確か前に洋亮が同じクラスだったから詳しいこと聞いてみようぜ」

ってか洋亮ってどこのクラスだ??
…あ、いた!
あいつは3組になったのか。
及川洋亮。特に親しいわけでもないが、自分の学年の情報は人一倍詳しい。
つまり3年生の情報屋だな。

「洋亮!」
「おぅ、翼か」
「いきなりで悪いんだけどさ、岡庭真紀ってどんなやつか知ってる?」
「岡庭?何でそんなやつのこと知りたいんだょ?」
うっ、まぁ知らなくてもいぃんだけどさ…

「まぁいいじゃんか。んで、どんなやつなんだ？」
「一言で言うと『モテる女子』かな。それ以上はよくわからない」
…どぅゆう人なんだろ？

## 3、朝学活

俺たちはとりあえず教室に戻ることにした。
【3－1】
戻ってくると、さっきより人が増えていた。
でも岡庭真紀はこの中にいないようだ。
「翼、そろそろ朝学活始まるぞ。席ついとこうぜ」
「おぅ、またあとでな」
席に戻ると隣の机にカバンがかかっていた。
あいつもぅ来てたのか。

タタタタッ…
「おっ？誰か来た」
ガララ　ドアが開いた。
あ、可愛い子だな…
とか思ってたら隣の席に座ってしまったではないか！
え…この子が岡庭真紀？
自分でも気づかないくらいぼーっとしていたらしぃ。
「どうしたの？」
その一言で目が覚めた。
「えっ！？あぁ何でもない」
「あそぅ…私は岡庭真紀。よろしくね」
「あ、よ・よろしくっ！」
何でだろう…言葉がうまく言えない。
ガララッ
「はぃ、おはよぅ」
先生が来た。
名前は村上。下の名前は忘れた。
若い男性の先生だ。学校内ではそこそこ人気がある。

「はよざぃまーす」
適当な返事がチラホラ…

「え～私はこのクラスをとても良いものにしたいと思っています。これから1年間よろしくな」
「では、これからクラスの仲間を覚えてもらいたいので隣の席の人と自己紹介タイムにしたいと思います。」
…えっ！？

## 3、自己紹介タイム（前書き）

登場人物紹介１

【神杉翼】

中学３年生の草食系男子。

部活には入っていないが、走ることは嫌いじゃない。

決してモテないわけじゃないが彼女いない歴１５年…

頭はそこそこ良い。

今までの中間テスト、期末テストでは最高で４１３点をとったことがある。

委員会は図書委員会。

## 3、自己紹介タイム

「自己紹介タイムは5分間。質問して相手が答える形でやってくれ。質問はどんなことでもいぃぞ～」
なるほどね。よーくわかりました。
「真紀…さん？始めるょ？」
「うん。あ、名前に『さん』つけなくていぃよ！呼び捨てで。」
初めて話したのに5分で呼び捨てかよ…。いぃのかな？
「わかった。じゃあ真紀、始めるょ。」
『名前は神杉翼。部活には入ってないけど走るのは好き。ん～とあとは…』
「走るの好きなんだ？私も好き！気持ちぃいもんね」
…意外な共通点発見！！見た感じは静かそうで走るところが想像できないな。
「じゃあ次は私ね」
『名前は岡庭真紀。私も部活は入ってないんだ～。でも運動音痴じゃないよ！さっきも言ったけど走るの好きなんだ！あ、あと好きな歌はねＧＲｅｅｅＮ全般！なんでかというと…』
真紀よく喋るな～。そろそろ時間みたぃだし止めた方がいぃのかな？
「あのさっ！もぅ終わりみたぃだよ」
「やっぱＧＲｅｅｅＮといったら…あ、終わり？早かったね」
村上先生が何か言おうとしてるみたぃだけど周りがうるさくて泣きそうになってる…
あ～ぁ弱ぇ先生だな。
「みんな静かにして！先生が何か言おうとしてるじゃない！」
何かキターーー！

## 5、沢口衿奈…？（前書き）

登場人物紹介２

【中川宗司】

中学３年生のいたって普通のどこにでもいそうな男子。

神杉翼とは昔からの付き合いで、小学校の頃からクラスが別になったことがない。

かっこいぃわけじゃないけど、なぜかモテる。

バレンタインデーには過去に６個もらったという記録もある。

委員会は放送委員会。

## 5、沢口衿奈…？

「今は自己紹介タイムよ。休み時間とは違うのょ！」
シ〜ン…
「はぃ、自己紹介タイム終了！」
今ごろ仕切っても遅いっすょ〜！
「沢口衿奈（さわぐちえりな）ありがとな。」
「いえ、当然のことです」
うざぃな〜そぅいうタイプ。
あいつは沢口衿奈。前に同じクラスだったことがあるんだけど、鬼級長とか言われて恐れられてた。まだ級長は決まってないけど、どうせ今年もあいつがやるんだろうな。

キーンコーンカーンコーン…

「おっ？もぅ時間か。じゃあ朝学活は終わります。1限に遅れるなょ〜」
「あざした〜」

タタタッ…宗司が来た。
「おぃ翼！自己紹介どぅだった？」
「どぅだったって…何が？」
「岡庭真紀だょ！どんな子だった？」
「ん〜そぅだな…」「特に目立ったことはなぃけど、とりあえずよくしゃべる。」
とか言っとけばいぃかな。
「え？よくしゃべるの？意外だな。」
「俺も見た目ではおとなしそぅだったんだけど、話してみるとおもしろぃ人だったょ」

うん、それは本音だ。
「マヂで～なんか期待外れって感じだわ～」
期待外れって…何に期待してたんだょ。
「まぁそいつのことはもぅいぃじゃん」
「ん～そぅだな。気持ち切り替えー！」
こいつのこの癖（気持ち切り替えー！）はいつ直るんだろぅな～

このあとはいつも通りの学校生活を送っていった。

～1日目終了～

## 6、下校雑談

キーンコンカーンコーン…
「おっし！宗司帰ろうぜ」
「おぅ、そろそろ行くか～」
ザッザッザ…
グラウンドを歩く音だけが響いている。
「翼、お前このクラスどぅ思う？」
「どぅ思うって？まぁ悪くはないと思うけど」
宗司は、ほぉーとしたような顔をしている。
「悪くないって…良くもないのかょ？」
「う～ん今まで一緒だったクラスの人があんまいなぃし可愛い女子も…あっ」
やばぃ、なんで真紀の顔が浮かぶんだろぅ？
「どぅした？嫌いなやつとかいるみたぃな？」
「いゃ…そぅじゃなくて、むしろ逆？」
俺、何言ってるんだろぅ…
「逆？って事は…好きな人かょ？」
「…あぁ」
「聞いていいか？それって…誰？」
「え、そりゃあ…隣の…」
ちょっと待て、俺！まだ好きって決まったわけじゃない！
「隣の？」
「真紀…だょ」
言ってしまった…
でも実際ホントに好きなのかは自分でも分からない…
「だょな、実は俺もなんとなく思ってたんだ～」
「ならわざと聞いたのかょ！」
「まぁ怒んなって。俺もあいつ悪くないと思うぜ」

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3375i/

隣の君は…？

2010年10月17日06時28分発行